

平成 28 年度の事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人カレーズの会

<目次>

1. 平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの全体の振り返り	1
2. 平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの事業別報告	2
① 事業名：保健衛生のインフラ整備事業	
② 事業名：教育再建への支援事業	
③ 事業名：今井記念海外協力基金支援事業	
④ 事業名：日本 NGO 連携無償資金協力	
⑤ 事業名：アフガニスタン復興に必要な助言と提言事業	
⑥ 事業名：その他目的を達成するための事業	
3. 本法人の運営を充実させるための取り組み	12

1. 平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの全体の振り返り

引き続きアフガニスタン・イスラム共和国は大変に厳しい情勢下にある。2 月 6 日、国連アフガニスタン支援団 (UNAMA) は 2016 年に戦闘に巻きこまれた民間人死傷者数を発表した。それによると死者は 3,498 人、負傷者 7,920 人、合計 11,418 人に上り、統計を取り始めた 2009 年以降で最多を更新した。そのうち子供は 3,500 人超で、前年比 24%も増加した。その多くは不発弾による犠牲者であるとされている。

カンダハール市内でも 1 月 12 日に大規模な爆弾テロが知事庁舎で発生し、カンダハール副知事やアラブ首長国連邦 (UAE) 外交官など 12 人が死亡、カンダハール知事や駐アフガニスタン UAE 大使を始めとする多数が負傷した。知事庁舎内のゲストルームに爆弾が仕掛けられたこの事件は、カンダハール市民にも大きな衝撃を与えたが、この事件に屈することなくカレーズの会カンダハール診療所は通常通りに診療業務を継続した。「夜間の出産」も順調に実施されており、3 月末までの 12 ヶ月間に診療所では夜間と昼間合わせて 231 件の出産が行われた。

平成 28 年度会員状況は 404 口 (個人 356 口、団体 12 口、賛助 34 口、学生 2 口) となっている。マンスリーサポーターの登録者は 45 人、102 口 (一口 1,000 円) で、少々伸び悩みにある。夏の募金は 188 件で 1,480,340 円、年末年始特別募金は大口募金を含め 275 件 4,171,380 円、加えてバザー品売上として 183,400 円を経常収益に計上した。

外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」に係る助成金申請を当該期間に進めていたが 3 月 23 日に申請書一式を国際協力局民間援助連携室へ提出し受理された。又、寄付者が税制控除を受けられる認定 NPO 法人の認定申請についても 3 月 27 日に静岡市市民自治推進課に申請書を実行した。

2. 平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの事業別報告

① 事業名：保健衛生のインフラ整備事業

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
(1)カンダハール診療所での医療活動	<ul style="list-style-type: none"> 診療所を運営し、無償で医療・検査・治療薬等を提供 一部の検査(レントゲン、心電図、超音波、その他)を低額で実施 保健教育(公衆衛生・栄養)の実施 予防接種の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 44,199 人 有償 3,438 件 41,919 人 22,274 人 	事業費 ● 17,698 (固定資産の減価償却費除く)
(2)ヘルス・ポストを活用した地域医療の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス・ポストで予防接種の実施 簡単な傷の手当、急患者の搬送、保健教育(公衆衛生・栄養)等を実施 医薬品や消耗品の供給 ボランティア地域保健員の研修 	<ul style="list-style-type: none"> 1,553 人 35,638 人 	
(3)職員招聘	<ul style="list-style-type: none"> シェルシャー・レシャード アフガニスタン 事務所長(滞在 5 月 13 日～5 月 28 日) 		管理費 ● 217

(1) カンダハール診療所での医療活動

(1-1) 診療患者数

診療所を受診した患者数は平成 27 年度より 3,091 人減少した。これは、平成 28 年 10 月より院長のシャフィック医師が長期休職となっており、医師 2 名体制で診察をしているためである。その一方で、5 歳未満児は 12,617 人で患者の 28.5%を占めているおり、前年度の 24.7%より 3.8%上昇した。

平成 28 年度(4 月～3 月)患者数と種別

年齢分布	5 歳未満(0 歳～4 歳)		5 歳～14 歳		15 歳以上(15 歳～)		
4 月～3 月	男子	女子	男子	女子	男性	女性	診療患者数
合計	6,976	5,641	2,019	3,035	2,794	23,734	44,199
平成 27 年度	6,265	5,167	2,260	3,247	3,138	27,213	47,290
前年度比	+711	+474	-241	-212	-344	-3,479	-3,091

累計患者数(2002 年 8 月～2017 年 3 月)

男子(0 歳～4 歳)	68,987	14%
女子(0 歳～4 歳)	54,555	11%
男子(5 歳～14 歳)	14,449	3%
女子(5 歳～14 歳)	17,548	3%
男性(15 歳～)	51,326	10%
女性(15 歳～)	298,368	59%
合計	505,233	100%

(1-2) 保健教育活動

診療所では、日頃より待ち時間を活用した公衆衛生教育、栄養教育、「安全な出産」啓発等の保健教育活動に取り組んでいる。

平成 28 年度(4 月～3 月) 診療所での保健（公衆衛生）教育参加者数

グループ		個別		合計	平成 27 年度	前年度比
男性	女性	男性	女性			
2,397	24,876	748	7,361	35,382	49,260	-13,878

平成 28 年 2 月からは平成 27 年度 JICSNGO 支援事業で開発された栄養指導資料を活用した、保護者向けの栄養教育を診療所とヘルス・ポストで実施している。

平成 28 年度(4 月～3 月) 診療所での栄養教育参加者数

	合計	女性	男性
診療所	6,537	5,944	593
ヘルス・ポスト	2,900		
合計	9,437		

(1-3) 母子の健康を守る活動

予防接種員 2 名が実施した当該期間における予防接種総数(ワクチンセンター及びヘルス・ポスト)は 23,827 件(幼児 19,908 件、女性 3,919 件)となった。

幼児向け予防接種件数(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

種類		ワクチンセンター	ヘルス・ポスト	合計	平成 27 年度	前年度比
BCG	結核	1,065	82	1,147	908	+239
OPV	ポリオ	5,679	468	6,147	5,279	+868
PCV	肺炎球菌	4,091	341	4,432	3,976	+456
IPV	不活化ポリオ	1,076	93	1,169	494	+675
Hep B	B 型肝炎	131	0	131	54	+77
Pentavalent	5 価ワクチン	4,091	341	4,432	3,960	+472
Measles	麻疹(はしか)	2,226	224	2,450	2,169	+281
合計		18,359	1,549	19,908	16,840	+3,068

女性への破傷風予防接種件数(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

	ワクチンセンター	ヘルス・ポスト	合計	平成 27 年度	前年度比
妊婦	1,608	1	1,609	1,148	+461
非妊婦	2,307	3	2,310	2,159	+151
合計	3,915	4	3,919	3,307	+612

(1-4) 診療活動

外来診察による診察総数は 79,498 件(平成 27 年度 73,957 件より 5,541 件増加)に上る。当該期間の受診患者数は 44,199 人であることから、複数疾患の患者が多いと推測される。

診療所における外来診察の症例件数(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

呼吸器系疾患	急性呼吸器疾患	上気道疾患	肺炎	23,005	28.9%
消化器系疾患	急性下痢	急性赤痢	脱水症	8,660	10.9%
その他感染症	尿路感染症	皮膚感染症	眼感染症	7,189	9.1%
	マラリア・麻疹・ウィルス性肝炎		結核の疑い		
その他	高血圧	貧血	上部消化器系疾患	40,644	51.1%
	骨格筋系疾患	胃腸内寄生虫	皮膚病		
	精神疾患	外傷	骨盤内炎症		
	口腔歯科	微量栄養素疾患	重症の小児疾患		
	その他診断した疾病				



子供の『上腕周囲径の測定』による栄養不良検査(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

	検査数	良好	中度不良	重度不良	不良合計	中・重度割合
平成 28 年度	12,774	11,525	828	421	1,249	9.78%
平成 27 年度	12,459	11,436	1,000	23	1,023	8.94%
前年度比	+315	+89	-172	+398	+226	+0.84%

深刻化する栄養不良児の増加に対応する目的で、国連食糧計画(WFP)との連携を強めている。食糧支援配布拠点の指定を受け、WFP の担当者が診療所内に常駐。診療所医師により栄養不良と診断された妊産婦や乳幼児を登録し、彼らに対して WFP が無償で食糧や栄養補給食を配布している。

WFP による食糧支援の対象となる栄養不良児登録件数(平成 28 年 8 月～平成 29 年 3 月)

	中度	重度	合計
平成 28 年度	469	825	1,294



(1-5) 検査・看護活動

カンダハール診療所では、検査室での血液・血清・尿・痰・検便・生化学等の検査、放射線技師によるレントゲン、看護師による心電図や超音波検査等を行っている。(無償 16,154 件、有償 3,438 件)

診療所における検査及び看護活動(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

	検査(血液・尿他)	レントゲン	心電図・超音波	合計
平成 28 年度	16,863	1,680	1,049	19,592
平成 27 年度	18,024	905	1,396	20,325
前年度比	-1,161	+775	-347	-733



(2) カンダハール診療所の収益

(2-1) 現地寄付金

本年度は5件の現地寄付金があり、総額 11,269.76 米ドル(円建て額 1,188,885 円)を事業費に充当している。又、平成 27 年 2 月まで毎月 3,000 ドルを寄付してくれていたアフガニスタン企業が平成 29 年 1 月より月額 1,000 ドルの寄付を再開してくれた。

現地寄付金(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
	317,191 円			336,674 円		1,188,885 円
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
304,590 円			117,650 円	112,780 円		
平成 27 年度						4,105,120 円
前年度比						-2,916,235 円

(2-2) 現地事業収入

平成 26 年 4 月より、レントゲン、超音波、心電図及び一部の血液検査で若干の検査料を徴収している(検査材料代に相当し、現地の民間クリニックの半額程度)。加えて、平成 28 年 6 月より新患者の登録時に受付登録料を徴収できるようになった。当該期間では 16,554 件の新規登録があり、有償検査 3,438 件の検査料と合わせ、現地事業収入として US\$6,706.31、円換算で 728,301 円を計上した。

現地事業収入(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
36,903 円	51,847 円	65,937 円	46,695 円	91,594 円	40,291 円	728,301 円
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
50,176 円	62,374 円	81,552 円	61,178 円	50,074 円	89,680 円	
平成 27 年度						598,362 円
前年度比						+129,939 円



(3) ヘルス・ポストを活用した地域医療の取り組み

ヘルス・ポスト利用者実績(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

ポスト設置 箇所	アイノ・ メーナ	ブラクナ	アタド・ メーナ	ピロ カラチャ	ガルシャ・ メーナ※ ³	アンサリ・ メーナ	ハジ・ アズィズ	合計
ポスト数	3	1	1	3	0	1→0→1	3	12→11→12
治療※ ¹	1,400	512	398	1,545		185	2,025	6,065
訪問※ ²	1,003	355	286	1,170		144	1,609	4,567
衛生教育	5,506	2,001	1,628	6,380		849	8,642	25,006
合計	7,909	2,868	2,312	9,095	0	1,178	12,276	35,638
27 年度	7,979	3,629	2,353	11,554	5,619	2,831	11,430	45,395
前年度比	-70	-761	-41	-2,459	-5,619	-475	-846	-9,757

※1 治療は簡単な傷の処置や発熱等の投薬のこと。

※2 訪問では患者宅を巡回し経過や健康相談をする。

※3 平成 28 年 1 月より所轄地域から外れた。

当該期間のヘルス・ポストの利用者総数は合計で 35,638 人。産婆の経験があるボランティア地域保健員が手掛けたヘルス・ポスト内での出産の介助は **72 件**、栄養教育を受けた数は 2,900 人であった。

(4) 現地職員招聘とアフガニスタン視察

(4-1) 現地職員の招聘

定期総会及び第 1 回理事会に合わせシェルシャール・レシヤード アフガニスタン事務所長が 5 月 13 日～5 月 28 日の期間で来日した。静岡、浜松、大阪での現地報告会を始め、認定 NPO 法人 日本国際ボランティアセンター (JVC) 及び外務省国際協力局民間連携室と意見交換の場を持った。又、徳永良和理事のご厚意で、在京支援者有志とも交流した。

(4-2) アフガニスタン視察

レシヤード・カレッド理事長及び間間元理事は 11 月 5 日から 11 月 13 日までの期間で、アフガニスタンのカンダハール市を訪問し、現地活動を視察した。



② 事業名：教育再建への支援事業

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
学校支援	<ul style="list-style-type: none"> カンダハール市と周辺地域における保健教育改善事業(仮称)案件形成 	1,259 (生徒及び教員)	31

カンダハール市アンサリ・メーナ地区にあり、本会が在アフガニスタン日本大使館よりの草の根無償資金協力を活用して学校校舎を建設したハヤトラ・ハン小中学校は、新たに「ハジ・ニカ小中学校」に改名した。同校は小学生から高校生までが学習する総合学校を目指していたが、教員不足の為、高等学校課程(10年生～12年生)の認可は延期された。同校では引き続き1年生から9年生までが学んでおり、平成29年の秋に10年生クラス(高校1年生に相当)が開設される予定。

アンサリ・メーナ地区「ハジ・ニカ小中学校」(平成28年11月現在)

生徒			教員(正規・非正規)		
男子	女子	合計	男性	女性	合計
833	393	1,226	30	3	33
68%	32%	100%	91%	9%	100%

11月上旬のアフガニスタン視察の際に、同校へ白板9枚及び授業の開始を告げるチャイムを寄贈した。この寄贈に係る費用31,249円は物品寄付に計上した。



【助成金事業】

③ 事業名： 今井記念海外協力基金支援事業

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
助成金	「安全・安心な出産」促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 診療所出産 231 件 新生児ID 発行 188 件 	助成金 931

平成 28 年 4 月から今井記念海外協力基金の助成金を受けて同事業を実施している。当該期間に診療所では夜間に 131 件、昼間 100 件、計 **231 件**の出産があった。又、188 名の新生児には出生届に相当する乳児 ID カードを発行している。診療所での出産件数が増える一方で、ヘルス・ポストでの出産は減少している。

出産件数(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

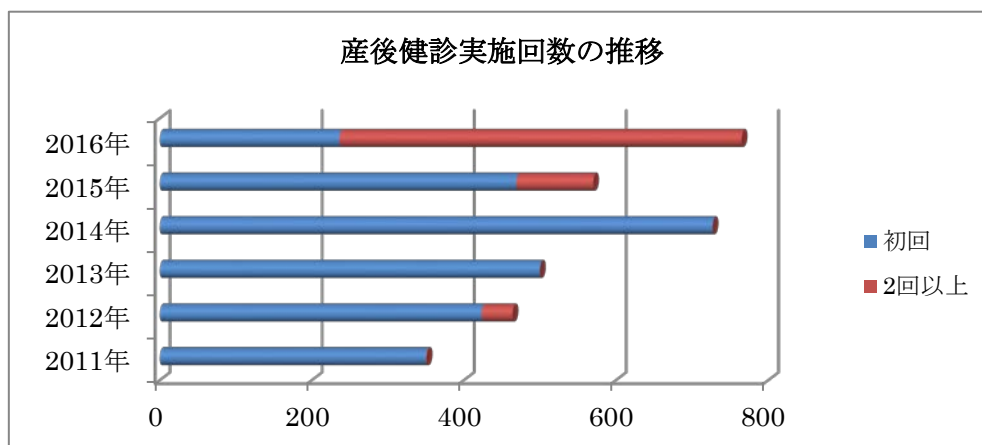
診療所				ヘルス・ポスト	合計
出産(昼間)	出産(夜間)	小計	流産・D&C	出産	
100	131	231	8	72	311
平成 27 年度		128	9	86	223
前年度比		+103	-1	-14	+88

(※1 ヘルス・ポストでは流産の危険がある場合、診療所に搬送しているため、流産件数はゼロとなっている。)

夜間の出産を通じての「介助された安全な出産」への関心が高まっている。それは産後健診の実施件数に最も顕著に反映されている。

産前産後健診の実施件数(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

	産前(初回)	産前(2回以上)	産後(初回)	産後(2回以上)	合計
平成 28 年度	1,352	674	236	529	2,791
平成 27 年度	1,222	616	469	101	2,408
前年度比	+130	+58	-233	+428	+383



「夜間の出産」は助成金による財源確保を受け事業化し、4月からボランティアで夜勤をする助産師及び支援スタッフ(女性用務員)、運転手に夜勤手当を支給している。又、女性用務員1名を6月より新規に雇用し、同事業の実施を強化した。これにより、現在は3名の助産師・看護師が3名の用務員とタッグを組んで金曜日を除く週6日間夜勤をしている。一方で、緊急に搬送が必要となった時や休診日である金曜日夜勤明けには女性職員の安全確保の為の送迎を実施しており、その場合運転手にも手当を支給している。

助成金による人材確保(職員給与及び夜勤手当) 平成28年4月～平成28年9月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
給与(1名)			8,851円	15,462円	15,351円	15,497円
夜勤手当	56,532円	59,408円	57,970円	54,632円	55,571円	39,774円
合計	56,532円	59,408円	66,820円	61,962円	70,922円	55,271円
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
給与(1名)	15,229円	15,724円	17,205円	17,648円	16,917円	16,964円
夜勤手当	55,131円	54,302円	60,791円	63,178円	54,811円	61,295円
合計	70,360円	70,026円	67,996円	80,825円	71,728円	78,259円
				通期	職員給与	154,848円
					夜勤手当	673,395円
					合計	828,243円

人件費以外では分娩室で必要なプロジェクト物資や発電機燃料の購入費用と共に、広報活動の一環として会報の印刷製本費230,040円を同事業に計上している。

平成29年度の「安全・安心な出産事業」に対し、ふじのくに未来財団から**468,900円の助成金**を2月に受け取った。この財源を基に、平成29年度も本事業を継続する。

④ 事業名：日本NGO連携無償資金協力

事業内容	概要	実施期間	費用(千円)
助成金	カンダハール市における地域医療を通じた包括的な母子の健康推進事業	2017年からの3年間	

当該年度は、同助成金事業としての案件形成に努め、3月23日に申請書を外務省国際協力局民間援助連携室へ提出した。今後、内容について精査されるが、平成29年度実施事業として同案件が採択される事に全力を傾ける。尚、同事業の具体的な活動内容については平成29年度事業計画案に記載する。

⑤ 事業名：アフガニスタン復興に必要な助言と提言事業

事業内容	概要
他団体との連携	(1) レシャード・カレド理事長及び来日したアフガニスタン事務所長が一般財団法人アジア図書館・アジアセンターを訪問し、現地活動報告会を開催(5月25日) (2) アフガニスタン事務所長及び本部事務局職員が日本国際ボランティアセンターを意見交換の為に訪問(5月27日) (3) 一般財団法人 日本国際協力システムの平成26年度 JICSNGO 支援事業の活動報告会で本部事務局職員が事業の成果を発表(9月29日)
NGO 非戦ネット	NGO 非戦ネットに発起人としてレシャード理事長が参加

⑥ 事業名：その他目的を達成するための事業(アフガニスタンへの理解を深める活動)

事業内容	概要
自主広報事業	(1) 東京 YWCA「留学生の母親」運動バザーで活動紹介(10月29日)
主催講演会他	(1) アフガニスタン事務所長現地報告会(5月19日、22日、25日) (2) アフガニスタン視察報告会(11月29日、12月24日)
メディアによる報道	(1) 静岡新聞 浜松現地報告会記事(5月22日) (2) 中日新聞 静岡現地報告会記事(5月23日) (3) 静岡新聞 「現地所長アフガン大統領から勲章」(5月24日) (4) 静岡新聞 静岡現地報告会記事(5月25日) (5) 毎日新聞 静岡現地報告会記事(5月26日) (6) 毎日新聞 「アフガン出身医師平和訴え」(10月5日) (7) 信濃毎日新聞 講演会記事(10月12日) (8) 朝日新聞(長野版) 講演会記事(10月27日) (9) 静岡新聞 「レシャード医師がアフガン現状紹介」(11月29日) (10) 中日新聞 「アフガン支援活動現地現状など報告」(11月29日) (11) 毎日新聞 「アフガンの命支える」(1月1日~7日連載) (12) 毎日新聞 ショートメール「医師たちの情熱」(1月20日) (13) 毎日新聞 「経験生かし国際協力」 ひとしずおか(3月19日)

3. 本法人の運営を充実させるための取り組み

当該期間において、次のような法人の運営を充実させるための活動に取り組んだ。

事業内容	概要
(1)会員増強活動	会員口数 合計 404 口(個人 356、団体 12、賛助 34、学生 2)
(2)自主財源強化活動	(2-1) マンスリーサポーター 寄付(随時) (2-2) 夏の募金(6 月 15 日～9 月 2 日) (2-3) 年末年始特別募金(11 月 14 日～2 月 27 日) (2-4) 書き損じ葉書リサイクル支援の推進(随時) (2-5) ダイドードリンコ株式会社「1 本のジュース」募金活動の推進(随時) (2-6) 募金箱設置による募金活動(随時)
(3)組織運営	(3-1) 理事会(第 1 回 5 月 22 日、第 2 回 11 月 27 日、第 3 回 3 月 12 日) (3-2) 資産の変更登記(5 月 30 日) (3-3) 法人税・法人住民税の申告(5 月 30 日) (3-4) 前年度の事業報告書等の提出(6 月 29 日) (3-5) 認定 NPO 法人への申請準備(随時) (3-6) レシャード・カレド理事長への月例報告(毎月 1 回)
(4)広報活動	(4-1) 会報の発行(4 月・7 月・10 月・1 月) (4-2) ウェブサイト www.karez.org の更新(随時) (4-3) 特定非営利活動法人カレズの会 Facebook ページの更新(随時) (4-3) メディアに対する報道のお願い(2 回) (4-5) 取材協力 毎日新聞・静岡新聞・中日新聞(随時)
(5)講演会他活動	11 回

(1)会員増強活動

(1-1) 会員及び会員口数について

平成 28 年度会員状況は次の通りである。

会員及び年会費 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

	年	個人	団体	賛助	学生	合計
会員数	平成 28 年度	285	12	31	2	330
会費振込 件数	平成 28 年度	288	12	31	2	333
	平成 27 年度	313	18	39	3	373
会員口数	平成 28 年度	356	12	34	2	404
	平成 27 年度	379	24	42	3	448
前年度比(口数)		-23	-12	-8	-1	-44
対予算目標		-44	-18	-6	-1	-69

(2) 自主財源強化活動

(2-1) マンスリーサポーター

平成 29 年 3 月末現在の登録者は 45 人、102 口である。

マンスリーサポーターによるご寄付（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）（円）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	
42,200 円	97,200 円	100,200 円	44,200 円	160,200 円	102,000 円	1,218,800 円	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
103,000 円	104,200 円	46,200 円	160,200 円	101,000 円	158,200 円		
						27 年度	1,128,120 円
						前年度比	90,680 円増

(2-2) 夏の募金

6 月 15 日から 9 月 2 日の期間で夏の募金を実施。募金は 188 件、総額で **1,480,340 円**であった。

(2-3) 年末年始特別募金

11 月 14 日から 2 月 27 日までの期間で年末年始特別募金を実施した。募金件数は大口募金を含め 275 件、総額 **4,171,380 円**の寄付金収益を得た。

(2-4) ふじのくに未来財団助成金の交付

平成 27 年 12 月から「アフガニスタンの女性に安全な【夜間の出産】を届けよう！」をテーマに、ふじのくに未来財団の 2015 年度寄付月間－特別キャンペーンに参加した。募金件数 7 件、総額 521,000 円の寄付が寄せられた。この寄付金を財源とするふじのくに未来財団から **468,900 円**の助成金が交付され 2 月に受け取った。

(2-5) 書き損じ葉書の提供及び未使用切手の寄付

平成 28 年 4 月から 3 月 31 日までの書き損じ葉書の提供は 12 件で 4,206 枚。未使用切手の物品寄付は 13 件で 29,267 円あった。

(2-6) ジュースの自動販売機による自主財源づくり

ダイードリンク株式会社の「1 本のジュース」事業による寄付金は現在 8 か所に寄付付き自販機が設置されており、当該期間の寄付金額は 104,116 円となった。

ダイードリンク株式会社「1 本のジュース」事業（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）（円）

4 月入金	5 月入金	6 月入金	7 月入金	8 月入金	9 月入金	合計	
7,375 円	8,621 円	8,319 円	9,008 円	12,899 円	9,089 円	104,116 円	
10 月入金	11 月入金	12 月入金	1 月入金	2 月入金	3 月入金		
10,252 円	9,891 円	8,429 円	6,535 円	7,459 円	6,239 円		
						27 年度	161,015 円
						前年度比	56,899 円減

(2-6) 募金箱設置による募金活動

当該期間の募金件数は12件、合計128,249円となった。これには島田市で開催された静岡県母親大会の会場で集められた募金を含んでいる。

(2-7) 収益事業

本会は平成27年度より収益事業を開始した。当該期間においては、レシャード・カレッド理事長と平成28年3月にご逝去された会員故長倉禮子氏による共著「戦争に巻きこまれた日々を忘れない日本とアフガニスタンの証言」や理事長著書「知ってほしいアフガニスタン 戦禍はなぜ止まないか」、2017年度特製カレンダー等を販売し、事業収益として279,886円を計上した。

(3) 組織運営

(3-1) 理事会の開催

第1回理事会(5月22日)

第2回理事会(11月27日)

第3回理事会(3月12日)

(3-2) 認定NPO法人化(所轄:静岡市 市民局 市民自治推進課 市民協働促進係)

寄付者が税制控除を受けられる認定NPO法人への移行に関し、3月27日に申請書類一式を静岡市に提出し、申請が受理された。実績判定期間は平成26年4月1日から平成28年3月31にまでの2事業年度となる。認定を取得する最大の難関は「パブリックサポート(PST)の基準」をクリア出来るかにあるが、本会の場合年間3,000円以上の寄付者の数が年平均100人以上である為、【絶対値基準】により申請をしている。今後は書面審査及び実態確認を経て、審査終了までには約6ヶ月を有する予定。

(3-3) レシャード・カレッド理事長への月例報告

当該期間で7回の月例報告を実施。

(4) 広報活動

(4-1) 会報の発行

当該期間で、会報を4回発行した。第53号(4月)／54号(7月)／55号(10月)／56号(1月)

(4-2) ウェブサイト www.karez.org の更新

随時ウェブサイトを更新した。

(4-3) 特定非営利活動法人カレズの会 Facebook ページの更新

3月末現在、Facebook ページには44人のフォロワーがいる。当該期間には12回ページの更新を通じて情報発信した。

(4-4) メディアに対する「報道のお願い」

当該期間に3件の報道のお願いを、静岡県庁社会部記者クラブを始め、新聞・テレビの浜松支局に投げ込んだ。

(ア) アフガニスタン事務所長浜松現地報告会 報道と取材のお願い(5月16日)

(イ) アフガニスタン事務所長静岡現地報告会 報道と取材のお願い(5月18日)

(ウ) アフガニスタン視察報告会 報道と取材のお願い(11月14日)

(5) 講演会活動

レシャード・カレッド理事長は、当該期間において下記の講演を実施した。

(ア) 静岡県母親大会(6月9日)

(イ) 一般財団法人日本国際協力センター(7月14日)

(ウ) 日本文化厚生農業協同組合連合会 文化連情報編集部(8月)

(エ) ERS 主催セミナー(9月14日)

(オ) 日本医師会(9月21日)

(カ) 順天堂大学講義(9月23日)

(キ) Meiji Seika ファルマ(9月29日)

(ク) 全国保険医団体連合会有志(10月9日)

(ケ) 清泉女学院(10月15日)

(コ) 日本女子大学附属中学校(1月19日)

(サ) 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(3月1日)

(シ) 日本国際保健医療学会学生部会(3月16日)

以上